

【蒜山だより】

酪農を志す若人 14名入学

財団法人 中国四国酪農大学校 教務課 北野 紘平

牧場の木々の新緑もまぶしく感じられる季節となりました。入学式から1ヶ月経ち、平成21年度新入生(第45期生)は早くも学校生活、牧場実習に慣れてきたように思います。さて、第45期生となる新入生ですが、東は東京都から西は宮崎県出身者までいて、酪農を志して大きな希望を持って、ここ蒜山にやってきました。

入学当初は、蒜山三座にもまだ雪が残っていて、多少寒さのせいもあったかも知れませんが、表情も硬く、会話も少ない真面目で温和しい学生が多いように思われました。しかし、1ヶ月もたたないうちに、いつもの年と同じような、元気な学生の姿になっています。

今年は、入学生数が14名と少ないこともあって、みんな仲が良く、大きな笑い声がよく聞かれます。2年生は4月から校外研修で全国に出ており、学内に残っているのは7名で、新入生とあわせても今は、17名ですから、少し学内が寂しいのでは？少ない人数で牧場作業が大変なのでは？と思われるかもしれません。

しかし、そんなことには関係なく、彼らは、とにかく若さで満ちあふれています。朝は5時30分の搾乳に始まり、昼間の講義をうけ、そして午後には、牧場実習が待っているのですが、放課後に野球をしたり、当番でないのに牧場作業に出たりと、遊ぶ意欲だけでなく、学ぶ意欲も旺盛です。昨年は女子学生が約半数でした。第45期生は例年並みの2名ですが、皆、同じ酪農の分野で頑張っていこうといことで、うちとけるのも早く、まとまりがあります。

新入生のうち酪農・肉用牛後継者は6名

おりますが、牛にほとんど触ったことがない学生や工業高校出身の学生もおります。6月には、さっそくトラクターの運転免許試験を受け、今年暮れには、各講義の単位を取得すれば、人工授精師の資格試験を受けることになります。

そして、2年生になれば、全国各地の先進牧場でいろんな研修を積んでいきます。牧場研修では、「まったく初めての地域で、知らない家族と同じ釜の飯を食べる」という、今では、多くの若者が味わったことのないような大変な経験することになります。

このように、彼らは、これから「酪農とは何か」、「酪農の楽しさ」などを学び、そしてまさに「他人の飯を食べる」経験を通じ、いろんな困難にも立ち向かう強い意志を持った酪農家に育って、多くの仲間や研修先方々を通じ幅広い視野を持った社会人になってくれることを職員一同願っております。

2年後、彼らの立派な Dairy Man の姿にご期待下さい。



第45期生集合写真

桜が見頃の蒜山ハーブガーデンにて(4/16)